

中学校 第2学年 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時 平成28年〇月〇日第〇校時
 対 象 第2学年〇組 〇〇名
 学 校 名 〇〇〇〇中学校
 授 業 者 〇〇〇〇

1 題材名

C 衣生活・住生活と自立 2 快適に住まう

2 題材の目標

- ・家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知る。
- ・家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫できる。

3 題材の評価規準

ア 家庭生活への 関心・意欲・態度	イ 生活を創意工夫 する能力	ウ 生活の技能	エ 家庭生活につ いての知識・理 解
①自分や家族の住空間と生活行為との関わりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。 ②安全で快適な室内環境に関心をもち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。	①室内環境について課題を見付け、調査・観察・実験などを通して、安全で快適な整え方や住まい方について考え、工夫している。		①住居の基本的な機能について理解している。 ②安全で快適な室内環境の整え方や住まい方に関する具体的な方法について理解している。

4 指導観

(1) 題 材 観

本題材は、中学校学習指導要領 技術・家庭科 家庭分野の「C衣生活・住生活と自立（2）住居の機能と住まい方 ア家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知ること イ家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫できること」として設定されている。中学校学習指導要領解説技術・家庭編より、ここでは、住居の機能と住まい方に関する学習を通して、自分や家族の住空間に関心をもち、住居の基本的な機能や安全に配慮した室内環境の整え方を知るとともに、安全で快適な住まい方を考え、具体的に工夫できるようにすることをねらいとしている。

(2) 教 材 観

- ・小学校での学習を振り返り、つながりを意識させる。
- ・ICT機器の活用。
- ・主体的・協働的な学習の工夫、実践的・体験的な授業として、アクティブ・ラーニングを取り入れる。
- ・第3期班テーマである「実践的・体験的な授業を通して児童・生徒の成長を見とる」に取り組むために、ポートフォリオを活用して学習内容の振り返りを文章にして生徒に書かせることで成長を見える形にする。

5 年間指導計画における位置付け

本題材は年間指導計画において、「C衣生活・住生活の自立」という単元の最後に位置付けている。小学校での学習や、4月からの学習のつながりを意識させたい。

また、本校の第2学年は12月にボランティア体験という行事で、高齢者の介護施設や障がいのある方々の支援施設、児童館などで1日体験活動をさせていただく。そこで、室内での事故や安全対策について学ぶことで教科横断的な学習に結び付くと考え、この時期に本題材を設定した。

4～6月	6～10月	10～12月	12～1月	2～3月
ガイダンス 日常着の活用 日常着の手入れ 環境に配慮した衣生活	布を用いた物の製作	住まいのはたらき 安全な住まい 快適な住まい	食品の選択と保存 幼児の生活と遊び	わたしの成長と家族

6 題材の指導計画と評価計画（7時間扱い）

	ねらい	学習内容・学習活動	具体的な評価規準・評価方法
第一時	住まいの基本的な働きを理解し、住まいに必要な空間とその役割が分かる。	<ul style="list-style-type: none"> ・気候風土や家の仕事による住まいの外観の違いを知る。 ・住まいの役割、住まいに必要な空間を理解する。 	アー① (活動の様子) (ワークシート) エー① (ワークシート)
第二時	和室・洋室の特徴と住まい方を知り、空間の使い方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・和室と洋室の特徴と住まい方を知る。 ・家族構成の変化によって部屋や空間の使い方をどう変化させるか考える。 ・同じような考え方の生徒同士でグループをつくる。 	アー① (グループ活動の様子) (ワークシート) イー① (ワークシート)
第三時 (本時)	住まいの空間と家族の生活行為との関わりについて具体的に考えることができる。 家族によって住まい方が違うことが分かる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を基に、それぞれのグループの意見の理由を考え、発表する。 ・発表から、住まいの空間と家族の生活行為との関わりについて具体的に考える。 	アー① (グループワークの様子) (ワークシート) イー① (ワークシート)
第四時	家庭内の事故の種類とその原因が分かる。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の体と動きの特徴を知る。 ・家庭内での事故と安全対策を理解する。 ・学校内での安全対策を確認する。 	アー② (活動の様子) (ワークシート) エー② (ワークシート)
第五時	安全な住まい方を考えたり、非常時の備えとして必要な物を挙げたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害と安全対策について知る。 ・火災防止、防犯対策のための住まい方を知る。 ・学校や自分の家の住まいの安全対策について考える。 	アー② (活動の様子) (ワークシート) エー② (ワークシート)
第六時	室内の空気が汚れる原因を知り、健康に配慮した住まい方を考え、工夫できる。 生活騒音の種類と問題点を理解し、適切な防音対策を工夫できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・室内空気の汚染について知る。 ・生活と音について知る。 ・室内空気の調節の仕方や、防音に効果的な工夫を考える。 	イー① (グループワークの様子) (ワークシート) エー② (ワークシート)

第七時	これまでの学習を生かして、安全、安心で快適な住まい方を工夫する方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> モデル家族といくつかの間取りを例に出し、それぞれに合った住まい方の工夫を考える。 考えた工夫を発表する。 	アー①② (活動の様子) (ワークシート) イー① (グループワークの様子) (ワークシート)
-----	--	---	--

7 指導に当たって

①授業形態の工夫

グループワークを行うことによって他者と考えを共有し、様々な考え方に気付き課題について多角的に考えられるようにする。

②指導方法の工夫

個人作業からグループ作業という流れをつくり、自分の意見をもって主体的に課題解決に臨むようにする。また、解決方法が分からない生徒にも、グループ内で意見を共有して課題解決のきっかけになるよう声掛けをする。

③教材の工夫

I C T機器の活用。

ワークシートでの振り返り。

グループで出た意見を紙に書き出して集約し、見やすくまとめる。

8 本 時 (全7時間中の第3時間目)

(1) 本時の目標

- 住まいの空間と生活行為との関わりについて具体的に考え、家族によって住まい方が違うことに気付く。

(2) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入	○前時の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> 住まいの役割 住まいに必要な空間 和室と洋室の特徴 		
	○本時の目標を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布する 	
展開	○住む人に合わせた空間の使い方について、各グループの意見を確認する。 ○空間の使い方が違うグループの理由を考え、発表する。 ○グループでのまとめや発表活動を受けて、考え方の違いや気付き、自分の考えが変わったのか、あるいは変わらないのかを記入し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 教師の方で簡潔に確認する。 グループは、前時で同じ意見だった生徒同士3～4人を1グループとする。 話し合いでは、司会、記録、発表者の係分担をする。 他のグループの発表を聞き、新しく気付いたことを個人のワークシートに記録するなどして、考えを広げたり、深めたりする。 	アー① (グループワークの様子・ワークシート) 自分や家族の住空間と生活行為との関わりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。
まとめ	○ポートフォリオに本時の振り返りを記入し、発表する ○ワークシートとポートフォ		

	リオを提出して、今後の学習の流れを確認する。		
--	------------------------	--	--

(3) 板書計画

11/9 住まいの空間と生活行為との関わりについて具体的に考え、住まい方の違いに気付こう。

どの部屋や空間を、どのように使うか考えよう ※ICT機器で間取り図を表示
祖母の部屋をどのように設定したか

洋室（8畳）単独
理由

洋室（6畳）単独
理由

和室（6畳）単独
理由

洋室（8畳）共有
理由

洋室（6畳）共有

和室（6畳）共有

※黒板に集約しきれない場合は、黒板横にパネルを準備する